

急性気道感染症では、細菌やマイコプラズマによる感染が強く疑われる場合以外は抗生物質は投与しません

急性気道感染症とは、咽頭炎・喉頭炎・副鼻腔炎・気管支炎・肺炎のことです。とくに乳幼児では、病気の初期はウイルスが原因のことが多く、抗生物質(抗菌薬ともいわれます)は効果がありません。また、検査よりも病気の経過や症状を正しく把握することのほうが大切です。水分補給を行って安静にすることが重要です。症状が強いときは症状を和らげるための治療(解熱薬、咳止め、鼻水止めなど)を行います。

高熱が続く場合、症状が長引く場合、のどが痛くて物を食べられない場合などは再受診をしてください。その場合は、細菌感染が合併しているかもしれませんので診察や検査(血液検査やレントゲン)が必要なことがあります。

<抗生物質を投与しないおおよその目安>

- ☐ 基礎疾患がない
- ☐ 全身状態が良好である
- ☐ 食欲がある
- ☐ 睡眠が取れている
- ☐ 細菌合併がない
 - ☐ RSウイルス ☐ ヒトメタニューモウイルス
 - ☐ アデノウイルス

☆なお、溶連菌感染症、マイコプラズマ肺炎などでは疑い例も含めて最初から抗生物質を投与することがあります。

☆当院では抗生物質の適正使用を推進するため「抗微生物薬使用の手引き」(厚生労働省健康局結核感染症課)を参考に抗生物質の適正な使用や普及啓発に取り組んでいます。